

令和 4 年度
第 2 回 佐渡市地域自立支援協議会

専門部会作業状況報告

令和4年度 知的・身体障がい部会報告

No.1

<p>構成員</p>	<p>岩の平園、第二岩の平園、あんずの家、まつはらの家、愛らんど相川、愛らんど畑野、愛らんど新穂、チャレンジ立野、そよかぜ、佐渡市手をつなぐ育成会、佐渡市身体障がい者福祉協議会、リトルマーチ、佐渡特別支援学校、新星学園、佐渡市社会福祉協議会、障害者相談員、佐渡地域振興局健康福祉環境部、中央福祉相談センター、そらうみ、こもれば、すたーと、社会福祉課</p> <p>◎愛らんど、◎はまなすの家</p>
<p>開催日</p>	<p>令和4年12月9日(第1回)</p>
<p>議題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 強度行動障害の方への支援について 2 8050問題について 3 コロナウイルス感染症対策について 4 今後、部会で取り上げたい課題等について
<p>内容・結果</p>	<p>強度行動障害の方への支援について、対応の成功例や新入職員への指導方法、研修等についてグループワークで情報共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「構造化」はクールダウンの場としても日頃の活動の場としても有効である。 ・個人の特性を理解した上で支援手順書を作成し、職員が統一した支援を行う。また、定期的に見直しを行う。 ・職員との相性もあるため合わない人は支援に入らない。 ・新入職員は強度行動障害支援者養成研修基礎研修を受講。最低3か月は先輩職員について支援方法を学ぶ。OJTの実施。 ・「冰山モデル」、ABA(応用行動分析学)研修等、現場に合った実践的な研修ができると良い。 <p>1</p> <p>保護者の高齢化に伴う課題、金銭管理等、必要な支援についてグループワークで検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が元気なうちから親亡き後のことについて相談できると良い。育成会や家族会と連携して研修等を実施できると良い。 ・ケアマネや包括等、保護者の支援者との連携が大切。緊急時の対応等、 <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割分担を関係性に合わせて調整していく。 ・成年後見、日常生活自立支援事業のニーズは増えているが受け皿は不足している。 ・身体障がいの方は成年後見、日常生活自立支援事業ともに利用できず、隙間を埋める金銭管理システムが必要ではないか。 ・入所施設の不足

内容・結果	<p>各法人、事業所での対応について情報交換を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人でマニュアルを作成。陽性者が出た場合のゾーニング等、マニュアルに沿って対応している。 ・家族感染で濃厚接触者となり、職員が長期休業する場合は、法人全体で人員配置を行い対応している。 <p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット等を利用し、リモートでの面会を実施。 ・利用者の中には感染症自体を理解できない方や抗原検査を嫌がる方もいるため、対応に苦慮している。 ・感染症対策による職員のストレスも大きい。 ・利用者が感染し自宅療養となった場合は、関係機関と連携しながら支援が必要。 <hr/> <p>4</p> <p>事前に構成員より聴き取りを行い、提案された内容について情報共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢の若い身体障がいの方の居場所等について取り上げてほしい。 ・強度行動障害の支援についてABA研修等については、知的障害者福祉協会の派遣事業を利用できるのでケース会議を行えると良い。 ・来年度からのピアサポート研修で、当事者との取り組みが国から強調されている。知的・身体障がいの方もピアサポートとしての活躍が期待されており、地域の中でもその機運をつくっていく必要性を感じる。
今後の取組	<p>1</p> <p>ABA研修等、現場が求める研修により多くの職員が参加できる機会を増やし、佐渡全体の支援の力を上げていく。</p> <hr/> <p>2</p> <p>金銭管理等の課題については権利擁護部会にも投げかけ、情報共有し検討していく。</p> <hr/> <p>3</p> <p>引き続き情報交換を行い、コロナ禍でも途切れない支援が提供できるよう検討していく。</p> <hr/> <p>4</p> <p>各事業所の状況等を確認し、検討が必要な内容については部会にて検討していく。</p>

令和4年度 就労支援部会報告

No.1

<p>構成員</p>	<p>佐渡公共職業安定所、佐渡地域振興局健康福祉環境部、身体障がい者福祉協議会、手をつなぐ育成会、よつば会、新潟県新星学園、さわやか、相川岩百合、サウスクラブ、愛らんど相川、愛らんど畑野、愛らんど新穂、チャレンジド立野、あんずの家、まつはらの家、真野みずほ病院、佐渡総合病院、佐渡市社会福祉協議会、はまなすの家、さど、こもれび、そらうみ、愛らんど、すたーと、特別支援学校、特支学校PTA、中央福祉相談センター、社会福祉課</p> <p>◎障がい者就業・生活支援センターあてび</p>
<p>開催日</p>	<p>令和5年2月16日(第1回)</p>
<p>議題</p>	<p>令和4年度(R4. 4月～R5.1月末)時点のあてびの取り組みの報告及び検討</p>
<p>内容・結果</p>	<p>1 今年度、昨年度同時期の実施状況の報告。(相談件数。職場実習のあつせん状況、一般事業所への就職件数など)</p> <p>2 あてびの令和4年度の取り組み(ピアサポート、企業研修、就労支援事業所見学会、在宅就労セミナー、企業見学会、ハローワーク主催の企業面接会への協力)の説明を聞き今後の障がい者雇用の拡大に向けてあてびに望むことを5つのグループに分かれて話し合った。</p> <p>3 あてびからは、従来の就労の時間や期間にとらわれない働き方を企業と考えることで、「就労できた」という喜びや達成感を感じそこからステップアップが図れるとよいのではと提案。地域の意見を行政(佐渡市)に繋ぐこともあてびの役割なのできっかけになることがあればどんなことでも聞かせていただきたいと伝える。</p>
<p>今後の取組</p>	<p>1 令和4年度に実施した取り組みは次年度も継続する。特に、企業と就労支援事業所や障がい者を繋ぐために企業に障害の特性を知り理解を深めてもらえるような内容など、セミナーの実施。</p> <p>2 今年度できなかった就労支援を行う各機関との連携についての検討。</p>

令和4年度 精神障がい部会報告

No.1

<p>構成員</p>	<p>佐渡よつば会、真野みずほ病院、佐渡総合病院、こもれび、さわやか、相川岩百合、サウスクラブ、障がい者就業・生活支援センターあてび、佐渡市社会福祉協議会、佐渡地域振興局健康福祉環境部、市民生活課健康推進室、両津支所福祉保健係、相川支所福祉保健係、羽茂支所福祉保健係、社会福祉課、はまなす、そらうみ、愛らんど、すたーと、利用者</p> <p>◎相談支援事業所さど</p>
<p>開催日</p>	<p>令和4年7月15日(第1回)</p>
<p>議 題</p>	<p>1 関係機関からの報告</p> <p>2 令和4年度関連事業の行動計画について</p> <p>3 当事者の居場所づくりの実施について</p> <p>4 教育分野への普及啓発について</p>
<p>内容・結果</p>	<p>1 「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム構築事業」、「真野みずほ病院の佐渡総合病院への統合」について各関係機関から報告。</p> <p>2 前年度の部会で検討した結果をもとに、「佐渡市精神保健福祉対策の目指すべきところ」、「令和3年度から5年度末までの行動計画」を作成し報告。</p> <p>3 当事者の居場所「やすんでみんなかっちゃ」について、1回目の実施を振り返りながら、今後の活動について検討。</p> <p>4 教育分野についての普及啓発について、対象者を年代別に分けて普及啓発方法について検討。</p>
<p>開催日</p>	<p>令和5年2月8日(第2回)</p>
<p>議 題</p>	<p>1 関連事業の実施状況と評価</p> <p>2 病院統合後の精神科医療体制について</p> <p>3 「精神科医療」について考える(グループワーク)</p>
<p>内容・結果</p>	<p>1 事前に「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム」構築関連事業の進捗状況と事務局による評価を構成員に配布。質問や意見があった項目について担当者より回答してもらう。</p> <p>2 佐渡総合病院病院長と看護部長より、統合後の精神医療体制、看護体制、地域との連携体制についてお話いただく。また真野みずほ病院の佐渡総合病院統合に関連した取り組みについても説明がある。取り組みの中で精神科医療、見守り・相談体制の確保、専門職の資質向上、住まい等の確保、施設入所における課題が確認された。</p>

内容・結果	①お互いの役割や機能を知る。(所属の役割や機能について説明) ②退院支援について考える。それぞれの立場から退院支援についての現状を話す。退院支援の現状を踏まえて、自宅で生活を継続していく為にどのような情報をもらえると支援しやすいかについて協議を行う。地域側は医療側から欲しい情報と伝えたい情報について、医療側は地域側から欲しい情報、伝えた情報について意見を出し合う。グループごとに発表を行い、意見の共有を行う。
今後の取組	1 令和3年～5年度の行動計画の評価と次期(令和6年～8年度)の方針を検討していく。 2 当事者の参加をすすめていきたい。

令和4年度関連事業の進捗状況及び事務局による評価

項目	①12月末時点の実施状況・成果等（今後の予定も含む）	②事務局による評価・見えてきた課題等	③次年度の取組方針案	④精神障がい部会構成員からの質問・意見等
①精神保健福祉ボランティア講座	<ul style="list-style-type: none"> ・全3回の講座を実施し、24名の方が修了証書を授与している。 ・ボランティアセンターへの登録も数名されている。 ・実際にボランティアに参加されている方もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講座を受けていただいたが、実際にボランティアに繋がる人は少なく、3回の受講だけでは不安だとの声がある。今後どのように繋げていけるか、実際に行ってもらううえでのマッチングをどのようにしていくのが課題となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は1年毎に、養成講座とフォローアップ研修を交互に行う予定。令和5年度は、フォローアップ研修を5月に実施することを計画している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害と統合失調症の特性について知識と理解を深めてほしい。 ・研修を受けただけではまだ不安だとの声があるとのことなので、ハードルの低いものから取り組んでもらうよう「ボランティア育成カリキュラム」のようなものがあるとよい（例えば、イベント開催ボラ（難易度：低）→作業所ボラ（難易度：中）→訪問・傾聴ボラ（難易度：高）など）。 ・関係機関から「こんなボランティアさんを探しています」というのを募り、ボランティア活動を希望する人とつなげるなども良いのでは。 ・ボランティアの依頼方法の周知をお願いしたい。
②当事者の居場所づくり（「やすんでみんかっチャ」の開催）	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年6月～月1回実施。（12月は大雪のため中止） ・会場：真野みずほ病院医師住宅 ・参加者：実27名。延33名。 実内訳：当事者13ボラ6支援者8（精神障害、知的障害が主） 再掲：作業所利用5家族5他3 ・当事者の約8割が勧誘で参加。当事者の8割が30代以上。 ・畑野、両津、南部の参加者0。 ・毎回アンケートを実施し実態を事業に反映。 	<ul style="list-style-type: none"> ○当事者について ・関係機関との連携によるPRが重要。 ・ひきこもり傾向の方の居場所としても年齢関係なく関わる。 ・サービス利用中も含めた、その人らしい利用をしていく。 ・家族が盛り上がりすぎてしまい、対象者が居づらい場所となってしまう回があった。対象を明確にし、家族会の充実等で当事者との住み分けが必要。 ○居場所について ・遠方地区の参加者がいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場：佐渡総合病院医師住宅 ・回数：4月～月2回実施。 ・対象：当事者のみ。 ・作業所利用の関係なく利用可。 ・内容の工夫と関係機関との連携により参加者を増やす ・ボランティア受け入れ。（受け入れ前の再教育） ・家族会の充実が必要 手をつなぐ育成会やしゃべってみんかっチャに繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・回数を増やしてほしい ・家族会の今後の活動と加盟者の確保をお願いしたい。 ・若年層からはFreeWi-Fiがある所が良いという意見もあった。 ・当事者にご紹介できる場が増えたことはとてもありがたい。 ・会の内容が具体的に分かると、対象者にお勧めしやすいです。どんな人が何人ぐらい来ているかどんなことをやっているのか等）。
③教育分野への普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・佐渡総合高校から普及啓発（疾病理解について）に取り掛かる予定で調整中。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1月から佐渡総合高校と打ち合わせを行っていく予定であるが、具体的な目的、方法を明確にした上で打ち合わせに臨む必要がある。 ・学校側のニーズ把握も必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度に佐渡総合高校から実施予定。 	
④精神疾患に関するリーフレット作成	<ul style="list-style-type: none"> 今年度作成予定の「障がい福祉制度パンフレット」に組み合わせる形で作成することで検討。 	<ul style="list-style-type: none"> 1月より具体的に作成に取りかかる予定。余裕がないスケジュールになってしまったが、今年度末には完成させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度中に作成予定。配布は必要な方のみ配布する。 	
⑤ヘルパー研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・10月にヘルパー事業所とヘルパー利用者にアンケートを実施。 ・アンケート結果からヘルパーが困難に感じている事として、精神疾患のある方との関り方や症状の波への対応などの返答があった。 ・ヘルパー利用者からは満足しているという意見が多かった 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、研修の実施に至らなかった。 ヘルパー従事者は、利用者の為に何かできないかと悩んでいる方が多かった。一方で利用者は今のヘルパー内容で満足している方多く、お互いの感じ方にギャップがあると分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回のアンケート結果をフィードバックする。 来年度2回実施予定。 1回目は、ボランティア講座と合わせて行い、精神疾患や付き合い方についてを学ぶ。2回目は、グループワーク等を取り入れ、実際の支援について情報交換等を行う計画をしている。 	
⑥精神障害者ピアサポート事業（県委託事業）	<ul style="list-style-type: none"> ・（福）とき福祉会が事業を受託。 ・7月と1月に「しゃべり場 ピュア」（ピアミーティング）をさわやかカレーショップにて実施。延べ18人の当事者が参加した。 ・精神保健福祉協会シンポジウムや佐渡市ボランティア講座にて、当事者がリカバリーストーリーを発表した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回「しゃべり場 ピュア」（1月）では、小グループにすることで活発な話し合いとなった。 ・スタッフが勉強不足のため、当事者に押し付けになっていないか。 ・事業所に通所する当事者が中心になっているが、事業所を利用していない方にどう周知していくか。 ・現在は国仲地区で開催しているが、遠方で参加しづらい方がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2/21にピアサポート講座を開催予定。 ・3月に第3回「しゃべり場 ピュア」を開催予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軌道に乗るまでは、テーマを事前に決め知らせる事で当日話がより盛り上がるのではないかと。お菓子や飲み物が用意されていた事で、リラックスして話が出来ていた。 ・1/23に開催されたピアサポートに関する研修に当事者にも参加してもらった。アンケートでも自分の意見を記入できており、研修があれば参加してもらえるといい。 ・「スタッフから当事者に押し付けになっていないか」という点について、関心のある当事者にも企画段階から入ってもらい、一緒に考える仕組みにしてはどうか（実行委員会を立ち上げる等）。 ・まずは地道に継続しながら、活動状況などをさまざまな機会や媒体を活用し発信していけるとよいのではないかと。
⑦金銭管理シートの作成（権利擁護部会にて検討）	<ul style="list-style-type: none"> ・9月に権利擁護部会を実施。事務局で作成したシート案を構成員と検討。 ・検討したシートを実際に使用してもらい、そのうえで修正等の必要があるか次回の部会で検討することにた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部会の中で、利用者の中には通帳を見せたがらない人も多い。金銭管理シートを利用者と一緒で作成するよりも、その段階に持っていきまが難しいとの意見が出た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭管理シートについて実際に使用してみて、改善等と共有し内容の修正等を行う。 ・完成したシートを実際に使用してもらえるよう周知方法を部会にて検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者がお金の話を利用者と話すことができているか。支援者自身がタブー視していないか。支援者のスキルアップも大切。 ・金銭管理シートを実際どうやって利用してきたか、日常や困窮などの職員から運用方法を説明してもらってはどうか

令和4年度 権利擁護部会報告

No.1

<p>構成員</p>	<p>県弁護士会、岩の平園、第二岩の平園、はまなすの家、こもれび、さど、愛らんど、そらうみ、すたーと、佐渡市社会福祉協議会、佐渡市社会福祉協議会成年後見センター、佐渡地域振興局健康福祉環境部、高齢福祉課、子ども若者相談センター、身体障がい者福祉協議会、手をつなぐ育成会、佐渡よつば会</p> <p>◎社会福祉課 総合福祉相談支援センター</p>
<p>開催日</p>	<p>令和4年9月14日(第1回)</p>
<p>議 題</p>	<p>1 障がい者の権利擁護に関する情報共有について</p> <p>2 金銭管理シートの作成について</p>
<p>内容・結果</p>	<p>1 各機関からの報告や課題等について共有する。</p> <p>2 ①日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用する方の増加に伴い、受け手の人材不足や利用開始までに時間を要している状況にある。制度を利用しなくても金銭管理が行えるようなシートを作成。</p> <p>②各構成員に作成したシートを実際に使用してもらうよう依頼。使用状況と実施したうえでの課題等がないかアンケートを実施。</p>
<p>今後の取組</p>	<p>1 市内における日常生活自立支援事業や成年後見制度の状況について共有。</p> <p>2 金銭管理支援についての検討。</p>

令和4年度 ひきこもり支援部会報告

No.1

構成員	NPO法人エコひびき佐渡、アフタースクール、KHJにいがた「秋桜の会」佐渡支部、はばたき、佐渡地区高等学校長会、佐渡地域振興局健康福祉環境部、佐渡市社会福祉協議会、佐渡市教育委員会、市民生活課健康推進室、両津支所福祉保健係、相川支所福祉保健係、羽茂支所福祉保健係、子ども若者相談センター ◎社会福祉課 総合福祉相談支援センター
開催日	令和4年6月27日(第1回)
議題	1 ひきこもり支援機関リストについて 2 グループワーク
内容・結果	1 ひきこもり支援機関リストの更新について呼びかけを行った。 2 ひきこもり支援に必要なことについてグループワークを行い、今後のひきこもり支援部会での活動方針を検討した。
今後の取組	1 今後、リストの更新を行うことへの同意が得られた。 2 グループワークの結果、①連携の強化・役割の明確化、②研修会(市民向け・支援者向け)、③事例検討があげられたため、今後具体的な取組み計画を検討する。
開催日	令和5年1月30日(第2回)
議題	1 ひきこもり支援機関リストについて 2 グループワーク
内容・結果	1 ひきこもり支援機関のリスト作成、内容の確認を行った。またひきこもりに代わる呼称について提案があった。 2 ひきこもり支援部会の今後の活動について検討を行い、3年計画を作成した。今後各担当グループが中心となって取り組んでいくこととなった。
今後の取組	1 支援機関一覧の内容について当事者向け、家族向けとして作成をする。次年度佐渡市独自の呼称を検討することとなった。 ①連携強化・役割の明確化:オンラインでの会議機能を利用した連携会議や関係機関の役割票・アセスメント用紙の作成を行う。 ②啓発活動:担当窓口の明確化・体制整備を行い、PRを行う(紙媒体、各団体のポスター、HP)。家族のコミュニケーションの取り方などの周知を行う。 ③支援者のスキルアップ:年に2回の事例検討、ミニ講座、情報共有を行っていく。事例提供等は輪番にして必ず実施されるようにシステム作りを行う。

令和4年度 療育支援部会報告

No.1

<p>構成員</p>	<p>佐渡総合病院小児科医師、リトルマーチ、中央児童相談所、佐渡地域振興局健康福祉環境部、佐渡特別支援学校、教育委員会、小学校長会、中学校長会・佐渡ことば・こころの教室、放課後等デイサービス愛らんどえがお、愛らんど、そらうみ、すたーと、杉っこクラブ、市民生活課健康推進室、社会福祉課、子ども若者相談センター</p> <p>◎新潟県新星学園</p>
<p>開催日</p>	<p>令和5年2月13日(第1回)</p>
<p>議題</p>	<p>1 前回の振り返り(要望書等についての進捗状況について)</p> <p>2 本部会へのご意見・ご要望</p>
<p>内容・結果</p>	<p>1</p> <p>①佐渡市における放課後デイサービスを利用したいと思う人が手帳を所持していない、その数も把握できていないのが現状である。 佐渡市では2か所しかなく、定員オーバーが続いているのが現状。 少なくとも空きが出るまで5、6年かかる(現利用者が18歳になるまで)</p> <p>②佐渡市における子供の心理・発達検査体制のマップ作りとその連携について。WISC等の検査が学校入学で実施件数が増えている現状。 島内で検査体制のマップづくりが必要である。</p> <p>2</p> <p>①医療的ケアを必要とするお子さんが島外病院に入院した場合、保護者の交通費が負担になると相談あり。(市HPに情報記載あり。助成金制度あり。)</p> <p>②構成員をはっきりして明記してもらいたい。 ・佐渡地区特別支援教育研究協議会の会長・副会長を構成員にしてはどうか。</p>
<p>今後の取組</p>	<p>1 島内で検査体制のマップづくりの推進。WISC等実施できる施設が限られているため、利用者にも実施可能な施設を明確化していく。</p> <p>2 佐渡市における放課後等デイサービス事業所の拡充。利用希望者が増加傾向にあり、現在、児童施設において成人の方が利用しているため、適切な施設利用の推進を進めていく。</p> <p>3 構成員リストの明確化。案内を一斉送信で行っていたが、学校併設の施設には連絡が行き届かないため。構成員リストを見直し、明確にしていく。</p>

令和4年度 相談支援部会報告

No.1

構成員	障がい者就業・生活支援センターあてび、愛らんど、新潟県新星学園、佐渡地域振興局健康福祉環境部、相談支援事業所さど、はまなすの家、すたーと、社会福祉課 ◎こもれび、◎そらうみ
開催日	令和4年6月21日(第1回)
議題	相談支援勉強会の持ち方について
内容・結果	相談業務の経験年数ごとに分かれGWを行う。初任、現任、主任の階層毎1の目標について意見を出し合い、全体の目標を設定する「スモールステップ～昨日の自分より今日の自分～」。
	2 初任、現任から出た質問にベテランから回答・助言してもらった。
今後の取組	階層毎の目指す姿に向け、個々の課題にむけて取り組んでいく。 1 毎月行われる勉強会の中で、様々なことにチャレンジしていくとともに、普段の業務では聞き辛いことも相談していく。
開催日	第1回:令和4年6月16・17日、第2回:令和4年10月13・14日
議題	令和4年度 相談支援・障害福祉サービス事業所新任者研修
内容・結果	今回より「障害者の支援」として、知的・身体・その他の障害、精神・発達障害についての講義を2コマ追加し、2日間共1日の日程で開催した。※前年度までは1日半の日程。 1
	延べ第1回:20名、第2回:15名が参加。作業所や入所施設の支援員だけでなく、地区保健師、ヘルパー、GHの世話人等にも参加していただいた。
今後の取組	1 次年度も年2回開催で予定。制度改正など講義の内容をアップデートしていくとともに、伝え方についても工夫していく。
開催日	令和4年11月28日(第2回)
議題	1 各事業所から状況報告
	2 佐渡障がい福祉フォーラムについて
内容・結果	1 コロナ感染の影響や相談件数や相談内容について現状を共有。
	2 開催方法と日にちを決定。講義で聴きたい内容をリストアップ。相談支援部会の構成員を中心に実行委員として進めていく。
今後の取組	1 各機関情報共有し、必要時には協力できるところは連携していく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラムのメインテーマを決める 2 講演内容の候補の絞り込み ・会場、機材、予算(助成金)の確保

開催日	令和4年12月12日
議 題	相談支援拡大勉強会
内容・結果	講師に新潟県知的障害者福祉協会 会長 中村章一 氏をお招きし、以下の3つの議題に沿って話をいただき、グループワーク・意見交換も行った。
	1 新潟県における佐渡の現状
	2 佐渡におけるごちゃまぜのまちづくり
内容・結果	3 メタバースの可能性
今後の取組	障がい福祉の相談業務関係者だけでなく、市内の障害福祉サービス事業所や、高齢分野にも参加を呼びかけ、35名出席。今後も、高齢者、障がい児の支援者と、共に学べる機会を作っていきたい。
開催日	令和5年1月26日(第3回)
議 題	佐渡市における相談支援について(ミニ講義:グループワーク)
内容・結果	1 基幹相談センター(総合福祉相談支援センター)の役割と連携
	2 佐渡市における3層構造を理解する
今後の取組	それぞれの相談支援や機関が自分の立ち位置や役割を認識していくことで、地域の支援の流れがよくなっていく。支援者一人ひとり、事業所の役割、地域の役割・連携など定期的に確認し、より良い地域づくりに役立てていく。
開催日	令和5年2月25日
議 題	佐渡障がい福祉フォーラム2022開催(会場:あいぽーと佐渡+オンライン)
内容・結果	講演内容
	1 みんなと生きていく☆繋げる相談支援
	2 ひきこもりの方を支えるための地域づくり
	3 佐渡でごちゃまぜ
	4 発達障害と共生社会
内容・結果	参加者:134名(会場96名、オンライン38名)
今後の取組	3年ぶりに開催することが出来た。これまで2日間の行程であったが、今回1日のみの日程でハイブリッド方式で開催。県内外から講師を招き貴重な話を聞くことが出来た。今後も市内の支援者たちと共に学べる機会として開催していきたい(時期未定)。